

～当時をプレイバック～



校歌が制定された昭和31年当時の  
県立南会津高等学校



昭和31年当時の生徒たち



**校 歌**

古関裕而 作曲

*mf* 明るく、力強く *mf*

やまなみのはだーきよくはれ

ゆくあしーた いなのせせらーぎみず

すおとこる ひらけゆくさとあら

たなぶんか みなみ みなみ みな

みーあいづ 高等学一校

**校歌**

が歌い継がれて

**63年**

**校歌**

梁取三義 作詞

- 一、山脈の肌清く、晴れゆく朝  
伊南のせせらぎ、水澄むところ  
展げゆく郷、新たな文化  
南南 南会津高等学校
- 二、幸多き大自然、尾瀬の高原  
燧燧に湧き出する雲  
かかげる理想、花咲く文化  
南南 南会津高等学校
- 三、春の花若き歌、希望あふれて  
錦繡の秋、しろがねの冬  
正しき法を貫く文化  
南南 南会津高等学校

インタビュー「校歌への思い」

私も今話題の「エール」を楽しみに見ております。本校校歌の作曲をしていただいたということで、新鮮な気持ちで校歌を口ずさんでいますが、出だしは穏やかで、次第に盛り上がり、サビの部分ではとても高揚した気持ちになります。素晴らしい曲です。本校同窓生6500人の誇りです。古関裕而先生に心より感謝したいと思います。古関先生が作曲された経緯は、作詞を担当した梁取三義氏からの紹介であったようですが、その梁取氏は、南会津を舞台にした「伊南川のはとり」という小説を残しています。本校の図書館にも置かれています。昭和初期の南会津の若者の愛と友情を描いたほっこりする青春小説です。こちらの作品も読んでいただければ、本校校歌の味わいもまたひとつ深まるのではと思います。ぜひ一読ください。



県立南会津高等学校 校長  
**橋本 忠広 さん**

私が校歌で一番好きな歌詞は、高い目標を掲げて勉学に励み、努力を果らせる生徒の姿を、東北一の高さを誇る燧ヶ岳よりも高い雲に喩えた、二番の「燧燧に湧き出する雲、かかげる理想、花咲く文化」です。特に終業式での校歌斉唱は、歌詞のような生徒に近づくことができたら、学期を振り返りながら、明るく伸びやかなメロディーに乗せて歌えるので、私にとって密かな楽しみでもあります。また、本校の校歌は、二番の後に間奏が入るので、古関裕而さんの曲の特徴でもある上品さを感じられることも魅力の一つです。私たちと同じ福島県出身の古関裕而さんが、生涯で作曲した5000曲の一つであることを誇りに、次の世代へつなげていきたいです。



県立南会津高等学校 生徒会長  
**桑田 真帆 さん**

**校歌の生い立ち**

学制改革による  
高等学校の開設

終戦間もない昭和22年3月に学制改革による教育課程の大規模な変更が行われました。いわゆる6・3・3・4制への変更であり、小学校6年・中学校3年の義務教育に加え、高等学校3年と大学4年の高等教育の場が設けられました。

県立南会津高等学校の前身である県立南会津西部高等学校が開設したのは、昭和23年7月31日。会津若松まで出なければ高等学校へ入学できない時代から解放され、子を持つ家庭にとっては計り知れない喜びであったようです。

順風満帆には程遠く  
苦しい学校運営

開設当初は教員の採用や教具・教材の整備も不十分で、「無からのスタートであった」と、初代校長の玉川春雄氏は文章に記されています。学制改革に伴い、全国各地で高等学校が開設されたため、十分な予算は割り当てられず、当時は苦しい学校運営

が続いていました。当然のことながら、校歌制定に割とお金もなく、学校開設からの約8年間は校歌が制定されませんでした。

人のつながりにより  
生み出された校歌

旧南郷村農業協同組合長を務めた斎藤賢氏の回想記によれば、「作家の梁取三義氏（現只見町布沢出身）に校歌の実情を相談したところ、校歌の作詞を快く引き受けてくれた経過があり、作曲は友人の古関裕而氏とまで約束してくれた」との内容が記されています。

本来であれば、作詞料・作曲料は高額になるはずですが、梁取・古関両氏が安価な金額で請け負ってくれたことも回想記には併記され、後に当時の生徒たちが山菜取りで稼いだお金と、PTAからの寄付金を合わせた金額を、お二人に届けたというエピソードが残っています。

相談から約1年後の昭和31年12月に県立南会津西部高等学校の校歌は制定されました。昭和35年4月に県立南会津高等学校への改称を経て、現在の校歌に至っています。県立南会津高等学校のホームページから校歌を試聴することができます。ぜひ試聴してみてください。